

第4回 秩父市立中学校部活動地域移行推進協議会 議事録

日時 令和6年10月31日(木)

15:00~16:30

会場 秩父市歴史文化伝承館研修室

1 開会 15:00 (10名参加)

2 挨拶

秩父市教育委員会教育長

秩父市立中学校部活動地域移行推進協議会長

3 情報提供

- (1) 秩父市の現状について(前回協議会以降の取組について事務局より説明)
- (2) 他地域の取組について(スポーツ庁資料を用いて他自治体の取組について事務局より説明)
- (3) 最近の新聞記事から(令和6年10月24日付読売新聞記事「平日の地域移行・地域展開」を紹介)

※秩父市は従来の予定通り、休日の部活動について協議を進めることを確認

4 協議

《主題》 **中間報告(案)の内容について**(内容については協議資料参照)

(1) 内容の表記について

- ・3月答申を誰が見るのか。→教育委員会への答申であるが、HP等で市民へも公開する。
- ・財源が未定のものについては、表記を注意し、「予算が取れている」と誤解されないようにしたい。
→「財源の検討」等の表記にしていく。
- ・今回の案の文言が、目の前の生徒の現状から離れているようにも感じる。地域移行により活動しない子が増えるようにならないようにしたい。→「楽しむ」目的のクラブも紹介していく。
- ・必要な調査、関係者への直接の聞き取りをぜひしてほしい。→受け入れ団体等へ随時実施する。

(2) 運営について

- ・運営主体(運営事務局)はどこになるのか。→現状は市教委がならざるを得ない。
- ・各取組についてどこが主体となっていくか、実施主体を明確にし、運営体制を作る必要がある。
- ・運営体制が確立し、地域クラブ活動を見据えた合同部活動が実施できれば、国の補助金制度を活用できる可能性も考えられる。
- ・群馬県太田市では、財団法人太田スポーツアカデミーが動いている。財団法人のような運営団体を作るのも手ではないか。
- ・スタートで体制を固めることが大切。責任の所在を明確にするとよい。
- ・受け入れ側も、お願いする側も、お金がない中でやらなければならない。
→運営について、運営および実施主体は市教委が担う(市民スポーツ課や生涯学習課と連携)。

(3) 合同部活動について

- ・「休日の合同部活動を推進」とうたった場合、教委が「休日もやれ」というメッセージを送ることになるがそれで良いのか。→「休日合同部活動の実施」とする。
- ・合同部活動と、合同チームと、何が違うのか。単独でも実施可能なのに強制的にやるものなのか。大会にはどうやって出すのか。どう進めるのかイメージがわからない。必要性の周知が必要。
- ・単独の部では子どもたちが少ないので、大勢で集まって活動する機会は必要。
- ・大会出場の数等の面から、県中体連専門部との調整も必要。
- ・休日は地域、平日は学校と切り分けると、先生も子どもも気持ちの切り替えが難しい。
- ・他校の生徒が別の学校で活動すると、物が無くなった等生徒指導面でも懸念が生じる。

(4) 地域クラブ活動の内容について

《種目・分野》

- ・秩父は武道が昔から盛んで地区に道場や愛好会等がある。テニス、サッカー、ソフトボールなど複数の種目が既にクラブで活動している。それ以外に漏れてしまう種目部分をどうすくい上げ、活動を確保するかが問題。

- ・活動に楽しさを求める「緩い」部活動にもニーズがある。
- ・活動に参加しない子が多くなることが予想される。生涯にわたって健康に生活できる力を付けていきたい。参加しようとしないう子をどうするかを考えなければならない。
- ・秩父で中学生を多く受け入れているクラブをモデルとして、地域クラブ活動を推進するとよい。
- ・今までの部活動にない種目を立ち上げ、「減らない仕掛け」をつくることも大切だ。
- ・地域移行には、「今まで大会に出られなかった子が出られるようになった」「不登校だった子も活動に参加できるようになった」等の好事例がある。

《指導者》

- ・地域の人は、「学校は丸投げなのか」と感じるのではないか。
- ・在校等時間の上限を考慮すると、平日の活動はゼロにせざるを得ない。
- ・教員の中に、兼職・兼業でやろうと考える人がいるのかどうか。どのスポーツでどのくらい指導者がいるのか、知りたい。兼職・兼業で参加した場合、月の時間外在校時間と合計で80時間以内という制限がある。
- ・スポ少には「自分たちが中学生を指導しなければ」という意識が薄い指導者も少なくない。「自分たちが下の世代に教えていくんだ」と伝えていく必要がある。ボランティアでやってもらえるのが理想的。
- ・令和8年1月の移行前から、中学生が地域クラブに触れる準備機会を月に一回でも設けてほしい。地域クラブ側も、中学生を受け入れるための気持ちの準備期間がほしい。
- ・その道で生きてきた専門家がたくさんいるので、話をよく聞き、指導等の要請をしていくと良い。

《運営・施設》

- ・地域団体は、大人と中学生が一緒だと指導や運営が難しいのではないか。
- ・面倒を見てくれる地域住民は多く、統廃合により使っていない学校等も含め、秩父地域はスポーツ施設も多い。しかし、大人の団体では、施設の取り合いが起きている。秩父のルールが必要。社会教育とどのように連携を取るかといった視点も必要ではないか。
- ・柔道は、各道場の練習＋土日の活動を行っている。保険代、体育館使用料は負担してもらっている。やり方を工夫すればできる。指導者の考え方を、外に向けて変えていければ。
- ・一番大変なのはお金の面。活動を持続可能とするためには、各町とも連携して、減免等が使える仕組みを作るなど、場所をうまく使えるようにするとよい。

《総括》

- ・地域クラブ活動には、現状の部活動の種目・分野を中心に受け皿となる団体の開拓が望まれる。また、活動に参加する生徒を増やすために、アンケート結果としてニーズのある新規分野であったり、活動を楽しむことを目的としたクラブの開拓も望まれる。中学生が所属する既存クラブを調査していくことも必要。
- ・指導者の開拓としては、教職員の兼職・兼業での呼びかけもしていくが、現在の部活動外部指導者や既存クラブの指導者等へ合同部活動練習への参加を呼びかけ、中学生と関わる機会を設けていくことも必要。

(5) 地域移行のスケジュールについて

- ・令和7年度に何をするか。令和6年度中に令和7年度に動くための準備をしていく必要がある。
- ・令和8年度9月からの動きについて、校長先生方にも相談して、「この時期から部活動はやらない」と明言する時期を決めたい。
- ・合同部活動実施に向けた準備期間が、指導者側にも必要。

《総括》

- ・令和7年3月の答申に向け4回の協議会で検討してきた。今回の協議内容を踏まえ修正したものを各委員へ送付し確認いただく。その上で、課題は山積であるが、進捗状況を「中間報告」として教育委員会へ提出する。

5 閉会 16:30